

トラック7

(明るくお別れを伝えるために心の準備をしている途中で主人公が来る)

S:風の音、小さく

【位置::やや左 距離::中】

……あ。来た。

大丈夫、待ってないよ。

私も、さっきついたところだから。

ごめんね、急に呼び出して。

うん、少し、話したいことがあってさ。

とりあえず、こっちおいで。

(主人公が頷くのをみてから)

……うん。

【位置::中 距離::近】

S:主人公がベンチに座る

(明るめで辺りを見渡しながら)

ん。っ。

……きれいだね。

来るのは少し大変だけどき。

ここだけ空が空けていて……。

【位置…やや左 距離…近】

（一呼吸いれてから）

……。

ほら。

上、見て。

（優しい表情を浮かべ上を見あげ、ゆっくり）

……ね。

星が見える。

冬の、綺麗な星。

あの白くて一番光ってるのがシリウスで、

近くにあるのが、プロキオン

それから……。

あの赤い星が……

（主人公が被せてきて、一緒に発言するように）

うん、ベテルギウス。

あの星だけ、他より少し浮いてるけど、

でも、そこを中心に冬のダイヤモンドが出来てるっていう。

（一回視線を落とす）

うん。

なんか、星を見ていると心が落ち着いてくるよね。
空気も澄んでてさ。気持ち良い。

(少し暗めに)

こっぴつところは、やっぱり、好きだな。

(トーンを下げる)

……ん。

はは。

ばれちゃった？

明るく、話そうと思ってたんだけど。

【位置：中 距離：近】

(視線を主人公にうつして、ゆっくり)

あのさ。

私の夢、覚えてる？

あの海で君に話した……。

(若干声のボリュームを落として)

歌手になりたいっていうの。

自分の気持ちを歌にのせて、誰かに届けたくて……。

それで、君に隠れて、オーディションに申し込んでみたんだ。
仮歌ってやつ。

コンペティション用のがあつてき。

(少しだけ明るめで、優しく)

……ん。だつて恥ずかしいし。

結果が出てからじゃないと君に言えなくて。

それに、君に褒めてもらえたから、少し怖かった。

期待を裏切っちゃうんじゃないかって。

でね、なんか。

(一拍あけてから)

ん、合格。しちゃった、私。

(気まずそうに)

……うん。

ふふっ。

嬉しい、そんなに喜んでくれて。

(いったん距離を置くように)

だけど、さ。

デビュー候補っていう扱いらしくて、

寮に入らないといけないんだって。

そう。

毎日、レッスンがあったり、それから生活も管理されるみたいで。

(悲しそうに)

……うん。

だから、この町から、離れないと、いけなくて……。

君とも、しばらく、会えなくなっちゃう。

(一呼吸いれてから)

……。

ごめんね、急な話で……。

これからも、いろんなこと、したかったけど……。

……でも、ずっと思ってきた夢だからさ。

どうしても、諦められなくて。

(優しく、主人公の顔を見ながらゆっくり)

小さいころからずっと、

自分を閉じ込めて生きてきたのに、君が引っ越してきてくれて。

それで、私、変わったから。

(強めな意思表示)

だから、そんな私を否定、したくないから。

行こうと思う、東京。

(すこし砕けた感じで)

応援してくれる？

ふふっ、やっぱ、君を好きになってよかった。

うん、頑張る。

頑張つて、ちゃんと大きくなれたら、君ともまた、会えるから。

(余韻を残すように)

そしたらさ、また、続きしようよ。

あの日の。

。じゅん